

新体制での発進にあたって ～組織改編に伴う過渡期から次なる発展へ～

国際教育交流センターアドバイジング部門

田中京子・高木ひとみ・田所真生子

1. はじめに

組織改編に向けての検討や、改編後の体制整備のために多くの時間を使い、知恵や経験を結集して進んだ一年であった。部門内の人員や場所の移動があり、挑戦度の高い1年であったが、過渡期は様々な混乱があることを覚悟して、関係者間で積極的な思考を持ち、信頼関係を築けるように努力した。

2. 教育活動

(1) オリエンテーション：情報提供、信頼関係・交流、多文化理解の促進

留学生の渡日前から修了後にいたるまでの参加型、交流型、日本語・英語併用オリエンテーションを継続・充実させた。

【渡日前オリエンテーション】(日本語研修生、日本語・日本文化研修生対象)

例年と同様、国際学生交流課および入学予定者の進学先部局担当者と協力し、ウェブ上で渡日前情報、入学予定者のためのガイドブックを得てもらうよう案内した。

【到着後オリエンテーション】

・全学新入留学生オリエンテーション

春と秋の新学期に、国際学生交流課および国際教育交流センター・国際言語センター関連部門(両センターとも9月までは留学生センター)と協力して、オリエンテーションを行なった。

・G30プログラム新入学生向けオリエンテーション

秋の入学前に、関連部署と協力して、生活オリエンテーションを行なった。

・日本語研修生、日本語・日本文化研修生対象オリエンテーション

10月の組織改編に伴い研修生の所属は国際言語センターとなったが、到着後の区役所登録、学生登録、オリエンテーションを国際学生交流課と協力してこれまでと同様に4月と10月に数回に分けて行なった。

・国際交流会館オリエンテーション

新学期にはそれぞれの会館で、チューターが主催して新入居者に対するオリエンテーションを行っており、アドバイジング部門教員はそこに参加し挨拶等を行なった。

【帰国前オリエンテーション】(日本語・日本文化研修生対象)

国際学生交流課と協力し、プログラムを終えて9月に帰国する研修生に、帰国のための各機関での事務手続きや、帰国後の過ごし方などについて、オリエンテーションを行なった。

【交流型オリエンテーション(ワークショップ)】

例年通り、世界の文化、言語を学ぶワークショップを地域のボランティア講師の協力のもと行った(本年報「事業報告」中の「国際的人材育成のための多言語・多文化理解ワークショップの展開」を参照)。日本文化紹介のセッションでは、基礎セミナーと連携し、後期はセッションの通訳を一般学生から募って行った。

(2) 国際教育交流プログラム

【学生パートナーシッププログラム】

パートナーシップは、国際交流を希望する学生の登録により、一般学生と留学生を1対1で紹介し自由に交流する「きっかけ」を提供するものとして継続しているが、主に登録者に学内外の交流イベント、海外留学関係情報を提供することに役割が移行しつつある。(今年度の登録者数は一般学生12名、留学生7名で、マッチングは2件。)

【スモールワールド・コーヒーアワー】

2013年度は「挑戦と伝統」という目標を掲げて活動を行った。通常、前期3回、後期3回、計6回のコーヒーアワーを開催しており、本年度は下記のテーマで行った（カッコ内は参加者数）。4月「自己紹介ビンゴ」（100名以上）、5月「オノマトペ」（約45名）、7月「縁日企画」（約85名）、10月「自己紹介ビンゴ」（約60名）、11月「利き茶、茶道」（約60名）、12月「書道&折り紙&ブルーグラスミニコンサート」（約40名）。

コーヒーアワーのイベント開催は月に一度であるが、学生スタッフがその準備のために各回につき、4～6回程度、毎週1～2回のミーティングを重ねて企画運営をしている。テーマを考えるには毎回工夫が必要となる。多数の参加者があり、入退場自由なイベントであるため、どのようなアクティビティであると来場者が参加しやすく、有意義な交流を促進することができるのか、多文化への理解を深める視点も考慮しながら企画を行った。毎学期開始の回は新入留学生も多いため、自己紹介系のアクティビティを行っている。今年、学びの要素を取り入れたオノマトペ（擬態語・擬音語）に関するアクティビティも取り入れた。前年大変好評だった名古屋大学茶道部松尾流とのコラボレーション企画である「利き茶・茶道」も開催した。これは茶道のお手前を披露し、実際に参加者に畳の上でお抹茶を試飲してもらうコーナーを設けたり、何種類かのお茶を飲み比べて人気投票するというものであるが、今年プロジェクターで日本の風景を映したり、情緒溢れる雰囲気の中で行われた。さらに12月には、もう一つのコラボレーション企画として、ブルーグラスサークルの学生にミニコンサートで演奏してもらう機会も得た。今年新スタッフが数名加わり、留学生のスタッフも複数加入した。コーヒーアワーのイベント中に見られる効果もさることながら、企画運営活動

を通じた学生の人材育成という側面も持っており、学生たちの力を発揮する場や成長の場を提供している。今年、スタッフメンバーのオリジナルTシャツをデザインから企画し作成したが、イベント時にこのTシャツを着ることで、参加者からスタッフが分かりやすくなった他、一体感を増すことにもつながった。

【MEIPLES：名古屋大学グローバル・リーダー育成プログラム（メイプルズ）】

IF@N：名古屋大学国際学生フォーラム（アイファン）】

本年度でMEIPLESは2年目、IF@Nは4回目を迎えた。留学生・一般学生を問わず、国際的に活躍できる人材を育成することを目的に、包括的なプログラムとしてMEIPLESは誕生した。昨年度は全学同窓会支援事業の助成をいただき開始されたが、本年度からセンターのプログラムとして実施することとなった。

本プログラムは、大きく二つのパートに分かれる。まず前期では体験学習を取り入れたワークショップ・セミナー形式で、国際交流概論や多文化環境におけるコミュニケーション、自己理解と他者理解、問題解決やディスカッション方法、さらに、アジェンダや議事録の作成方法といった実務について学ぶ機会を持った。そして後期では前期に培った知識やスキルを磨く実践編としてIF@Nの実行委員会活動を行った。MEIPLESとIF@Nの実行委員会活動とフォーラム内容の詳細については、本紀要の事業報告と学生実行委員によって作成された『第4回IF@N：名古屋大学国際学生フォーラム活動報告書』、『名古屋大学国際交流グループ 2013年度活動報告書』をご参照いただきたい。

前期の活動には15名の登録メンバーが参加していたが、後期のIF@N実行委員会活動は10名で行うこととなった。本年度の特徴としては、実行委員会のメン



バーが学部1, 2年生で占められていたことがあげられる。そして、英語でディスカッションを行う二つのグループについては、新たに英語サポーターを募り、2名の留学生がファシリテーターの一員として参加し、最終的には計12名の実行委員として運営した。言語サポーターを募集することは初めての試みであった。

11月16日に開催されたIF@N当日には25名の参加者があり、ファシリテーターを加えた37名が熱いディスカッションを通して、有意義な一日を過ごした。当日はハプニングに見舞われることもあったが、それを学びのチャンスとし、乗り越えて柔軟に対応していく力には目を見張った。それぞれのグループで工夫や協力をしながらディスカッションが進められ、参加者やファシリテーターの輝く姿が印象的であった。

毎回、学生たちにとっても教員コーディネーターにも大きな学びをもたらしてくれる本事業であるが、MEIPLES, IF@Nともに定着してきた感がある。今後さらさら充実したプログラムとして発展させ、これからの社会・世界に貢献する人材を育てていけるように努めていきたい。

【多文化間ディスカッショングループ】

本年度は後期に多文化間ディスカッショングループを開催した。2013年12月～2014年1月にかけて、毎週同じメンバーで定期的集まり、文化に関することや

学生生活に関することについてディスカッション会を行った。中国、韓国、インドネシア、日本からの学生10名が参加し、時間を共有しながら、対話を通して、様々な気づきを深めていった。

【名古屋大学グローバルネットワーク(国際交流グループ) 活動報告】

名古屋大学グローバルネットワークとは、国際教育交流センターが顧問や支援する国際交流グループの連携を促すことを目的に2009年から存在している学内ネットワークである。現在は、8グループ(スモールワールド・コーヒアワー、ヘルプデスク、ランゲージシャワー、留学のとびら、名古屋大学グローバルリーダー育成プログラム MEIPLES, English College, 異文化交流サークル ACE, 名古屋大学留学生会 NUFSA)が共同で活動報告書を作成している。ゆるやかな連携のもと、各グループへの参加学生募集の広報活動やフリーマーケットなども行っている。

本年度は、3つの学生グループ(留学のとびら、ヘルプデスク、スモールワールド・コーヒアワー)が共同で名大祭のときにフリーマーケットを出店した。売上げは、各グループの活動資金となった。さらに年度末には、共同で年間活動の報告書を発行した。報告書は、アドバイジング部門のホームページを参照されたい。(http://www.isa.provost.nagoya-u.ac.jp/program/introduction.html)

より多くの学生たちが国際交流活動に参加できるようアドバイジング部門を中心に毎年、国際交流活動のリーフレットを発行しており、名古屋大学グローバルネットワークの国際交流グループを紹介している。リーフレットについては、アドバイジング部門のホームページを参照されたい。

(http://www.isa.provost.nagoya-u.ac.jp/doc/2014Inter%20exchange%20Act.pdf)

【学生組織との連携】

・異文化交流サークル ACE

ACE (Action group for Cross-cultural Exchange) は様々なプログラムで名古屋大学に訪れる留学生の生活のサポートや留学生と一般学生の交流を促進するためのイベントの企画・運営を行う学生団体である。松浦教授の退職に伴い、高木・田所が顧問を引き継ぐこととなった。1988年6月に結成されたこの団

多文化間ディスカッショングループ
Cross-Cultural Discussion Group

留学生や日本人学生など、名古屋大学生のみならず、多文化間ディスカッショングループに参加しませんか？
多文化間ディスカッショングループでは、多様な文化背景を持つ学生の皆さんと、週1回(固定期)に集まり、文化に関することや異文化体験、学生生活や日々考えていることなどをテーマに、コーヒーやお茶などを飲みながら、リラックスした雰囲気の中で話し合います。ぜひご参加ください！みなさんの申込みお待ちしています。

International and Japanese Students are invited to join our cross-cultural discussion groups!
Group member will meet on regular basis and share cross-cultural experiences, college student lives, and personal ideas in a relaxed small group atmosphere.

参加を希望する方は、氏名、国籍、専攻、メールアドレスを明記の上、国際教育交流センターまでメールにてご連絡ください。
e-mail: takahashi@eca.nagoya-u.ac.jp
(事前にお申し込みのために、電話番号、住所の郵便番号、11月1日～20日のお申し込みです。)
To join a group, please contact Center for International Education and Exchange (former IEC) by email.
Please specify your name, nationality, 2 department & messages.
e-mail: tsukagawa@eca.nagoya-u.ac.jp
(the group interviews will be held in advance.)

2013年12月3日(火)～2014年1月21日(火)
(毎週火曜日・冬休みの期間を除く・全7回)
2:45pm～4:15pm 募集定員 10名
December 3rd ~ January 21st
Every Tuesday 2:45pm-4:15pm

使用言語: 主に日本語を使用しますが、他の言語も文法が正しくサポートしあいながら、語り合います。
Language: Mainly Japanese and we will support each other in several languages.

体も結成25周年を迎え、11月に創設から歴代のACEメンバーが集まり、記念パーティーが開催された。

- ・名古屋大学留学生会（NUFSA）
NUFSAの顧問についても、松浦教授の後を高木・田所が引き継いだ。2013年度から中国出身の王さん（経済学研究科）が会長に就任した。NUFSAでは春と秋の留学生のためのバザーやウェルカムパーティーの他、スポーツ大会やスイカ交流会といった様々なイベントを行った。毎年NUFSA会計担当者とともに会計報告書を作成しているが、名古屋大学留学生後援会から補助金30万円を得ることができた。今後の活動内容の充実やその運営費用についてはさらなる創意工夫が求められており、次年度に向けて企画を練っているところである。
- ・愛知留学生会：愛知留学生会後援会の緊急援助金審査員および同援助金会計を2012年度から田中が担当し、事故や病気等で急な経済的困難に陥った愛知県内の留学生への支援について、申請受け付け、審査、支給、会計を行なっている。2013年度も十数件の支給をした。
- ・中国留学生学友会：当会が主催または共催する行事等について、相談を受けたり大学との連携調整について協力したりした。また、当会が定期的に行なう球技練習のための学内施設利用について、引き続き責任者として申請承認している。
- ・名古屋大学イスラム文化会：当会が主催する国や地域の文化紹介行事や、イスラム文化紹介の行事について、また毎週金曜日に行なう集団礼拝について、相談を受けたり大学との連携調整に協力したりした。
- ・名古屋大学インドネシア留学生会：当会が主催する行事等について、相談を受けたり大学との連携調整に協力したりした。

(3) 学生個別教育：相談

相談室での相談活動を「個別教育」と位置づけ、名古屋大学の留学生に限らず、在学生や他大学へ進学した学生、地域構成員などの相談にも可能な限り対応した。

【相談時間】

組織改編に伴って、場所も移動したため、相談は予約制としたが、予約のない時間で在室中は適宜相

談に対応した。電子メールでの連絡は常時受けられるようにした。相談件数は、様々な形や内容での相談について数値として残すことが難しいが、事務やボランティアとの連携による留学生の生活支援、オリエンテーションによる情報提供・文化理解促進、電子メールでの相談対応、問題防止に役立つ交流プログラムの企画・運営、メンタル相談員への紹介などの役割の中で、関連する相談が例年と同様にあった。国際言語センター生のチューター調整については各コースのコーディネーター教員が担当することになったため、アドバイジング部門での対応はなくなった。

【相談内容】

様々な相談の詳細その背景については、相談者個人に関わることなのでここで報告することができないが、今年度の特徴として以下を報告し、今後の活動に活かしていきたい。

■指導教員・研究室

研究指導の仕方や研究室での人間関係について、疑問や悩みが例年よりも多く寄せられた。所属部局の留学生担当教員（2013年10月からは「国際化推進教員」）や学内外関連機関と適宜協力しながら、疑問の払拭や問題の解決にあたった。特に立場が上になる人々の、責任と自覚がなお一層必要である。

■医療・健康

不審者に度々つけられる事案があり、警察の協力を得ながら対応した。病院の付き添いを何度か行なった。時に、英語対応のできる病院と連絡をとり、付き添うこともあった。ストレスや不適応等で不眠や身体症状を訴える者もあった。

■国際交流学生グループ

名古屋大学留学生会（NUFSA）や名古屋大学イスラム文化会（ICANU）、中国留学生学友会、インドネシア留学生会等からの相談があった。会が主催する行事についての相談、運動施設利用にあたっての申請や連絡、日々の礼拝やコミュニケーションについてなどである。部門としては、学生たちが文化交流やメンタルヘルス上必要な活動ができるような多目的室の必要性について、共用スペース使用に応募したり、機会あるごとに大学関係者に伝えたりしている。その他、名古屋大学で活躍している様々な国際交流活動グループ

からの相談に応じた。

■交流活動

パートナーシップ、ワークショップ等の参加登録などで相談室を訪れる学生たちは多い。その機会に、交流や進路、外国語学習についての相談を受けることもある。様々なプログラムを紹介し、言語も臆することなく積極的に使い実力をつけるよう、助言している。

(4) 授業

昨年度に続いて、今年度も日本の伝統文化を学び英語を使って発信する基礎セミナーを開講した。一部の授業を公開し、本センターの日本文化を学ぶワークショップとの連携講座とした。

大学院国際言語文化研究科の「異文化コミュニケーション論 a/b」の授業は11年目となり、多文化学生チームで授業を進めた。

また、本年度も後期の教養科目「留学生と日本—異文化を通しての日本理解—」を浮葉教授を代表とする教員チーム（高木、渡部、田所）により開講した。

以上授業についての概略は本年報の「異文化交流実践を授業にフィードバック」報告にまとめた。

3. 大学国際化への貢献

(1) 大学主催研修会等への貢献

・教職員研修

4月には、新任教員研修および新任職員研修で多文化学生対応についての講師を担当した。新任教員研修のポスターセッションではアドバイジング・カウンセリング部門の紹介を行なった。11月には、国際企画課が主催する職員研修において、異文化コミュニケーションの講師を担当した。

・本センターキャリア支援部門主催の「自己表現ワークショップ」(即興演劇の手法を活用したワークショップ)の開催に協力した。

(2) フォーラム等の開催

【グローバルリーダー教育フォーラム開催】

国際教育交流センターでは、「名古屋大学グローバルリーダー育成プログラム (MEIPLES)」を実施している。本プログラムの振り返りと、同様のプログラムを実施している他大学から講演者を招き、グローバル

リーダー教育について検討する機会として、2014年2月18日(火)「グローバルリーダー教育フォーラム」を開催した。

堀江未来氏(立命館大学)からは、グローバル人材論を紹介いただき、立命館大学の多文化共修を実例としたグローバル人材教育の戦略と取り組みについて講演いただいた。パネルディスカッションでは、秦喜美恵氏(立命館アジア太平洋大学)から初年次教育のカリキュラムへ組み込んだピア・リーダー教育についてご紹介いただき、次に、袴田麻里氏(静岡大学)から、静岡県留学生等交流推進協議会と共に取り組んでこられた多文化学生フォーラム「話っ、輪っ、和っ」についてご紹介いただいた。最後に名古屋大学からアドバイジング部門の田所と高木が本学のグローバルリーダー育成プログラム (MEIPLES) について、実践の取り組みと課題について報告を行った。また、MEIPLESに参加した工学部1年生の崔敏さんより、学生の視点からの報告もいただいた。最後の全体ディスカッションでは、本学教育発達科学研究科高井次郎先生より、各報告についてのコメントをいただき、全体で議論を行った。今後のグローバルリーダー教育に関わるプログラム開発する上で、重要な観点を得ることができ、大変有益なフォーラムになった。詳しくは、本紀要の事業報告を参照されたい。

(3) 社員寮入居希望者面接

留学生のために社員寮を提供している会社が数社あり、入居希望者の面接を国際学生交流課の担当者とともに行った。条件のよい寮へは、大学からの推薦可能定員の何倍もの申請があり、申請者や事務・面接担当者の時間的負担も大きい。今後の選考方法への工夫が求められる。選考にもれて落胆するだけに終わらないよう、アルバイトや就職の際にも役立つような面接を行うことを心がけた。

(4) 国際交流会館チューター研修

インターナショナル東山・山手・妙見と留学生会館には合計約20名のチューター学生がおり、入居者の生活支援や会館運営の補助を行なっている。アドバイジング部門がチューターを対象とした研修を行なっており、今年度のチューターに対しては、前年度3月27日に研修会を開催した。

(5) 国際交流会館チューター選考

国際交流会館のチューターを希望する大学院生たちを、国際学生交流課の担当者とともに面接し、選考した。志の高い多くの学生たちと面談し国際交流について意見交換した。今年度は現チューターからの紹介を受けた学生たちが申請したが、チューター業務についてより多くの学生に知ってもらい、適性を備えた学生たちをより広く掘り起こすためにも、公募を行なえる

とよいと思う。

4. 地域社会と留学生の交流への貢献

(1) 国際理解教育への留学生派遣

昨年度と比較し11件多い24件の地域組織等主催行事に、連携・協力した。現在は募集告知を行い応募者のリストを依頼団体に渡すところまでを業務としている

No.	行事年月日	行事名	依頼団体	派遣数	備考
1	2013/5/19	多文化を楽しむ会	NPO 法人揚輝荘の会		催行者へ直接応募
2	6/5	国際交流 "World Trip"	チャイルドアカデミー上社保育園	1	ウズベキスタン
3	6/14	国際交流授業	名古屋市立滝ノ水小学校	4	インド, ウズベキスタン, インドネシア, 中国
4	6/19	国際交流授業	春日井市立押沢台小学校	4	中国, インド, ウズベキスタン, トルコ
5	6/25	ぎふ長良川鶴飼	岐阜市商工観光部観光コンベンション課	41	催行者へ直接応募
6	7/3	ぎふ長良川鶴飼	岐阜市商工観光部観光コンベンション課	45	催行者へ直接応募
7	7/6	青少年赤十字代表団海外派遣第2回事前研修	日本赤十字社愛知県支部	1	モンゴル
8	7/22, 23, 25, 30, 31, 8/2	国際交流授業	PIGEON YUTORI-TO LAND	6	カメルーン, インドネシア, カンボジア, インド, 中国, ベトナム
9	8/27-29	留学生ファムトリップ事業(岐阜・立山・長野)	中部運輸局 中部国際空港利用促進協議会 株式会社エスケイワード		催行者へ直接応募
10	8月下旬	イングリッシュキャンプ in あいち	株式会社インタラック		催行者へ直接応募
11	9/8	第9回 NAGOYA UNDOUKAI	名古屋商工会議所		催行者へ直接応募
12	10/19	国際交流セミナー	海陽学園	9	セルビア, インド(3), チェコ, ブラジル, インドネシア, ウクライナ, キルギス
13	10/20	多文化を楽しむ会	NPO 法人揚輝荘の会		催行者へ直接応募
14	11/13	国際交流授業	名古屋市立明正小学校	5	中国 (2), ドイツ, フランス (2)
15	11/16	留学生交流ツアー	名古屋を明るくする会	20	韓国 (7), アメリカ, 中国 (12)
16	11/23-25	留学生ファムトリップ事業(常滑・三重)	中部運輸局 中部国際空港利用促進協議会 株式会社エスケイワード		催行者へ直接応募
17	12/14, 15	International Party	愛知県立千種高校		催行者へ直接応募
18	12/21-25	イングリッシュキャンプ in あいち	株式会社インタラック	5	催行者へ直接応募
19	1/6-1/17	翻訳ボランティア	特定非営利活動法人オアシス		該当者なし
20	1/12	日本語スピーチ&プレゼン大会	地域多文化ネット「WKY」		催行者へ直接応募
21	1/25	新春留学生交流懇親会	名古屋を明るくする会	7	中国 (6), タイ (1)
22	2/8, 2/15	市民講座「外国を知る」	大府市立長草公民館	2	インドネシア (2)
23	2/14	国際交流授業	名古屋市立滝ノ水小学校	5	タイ, ウズベキスタン, インド, インドネシア, 韓国
24	2/17	国際交流授業	名古屋市立正木小学校	5	フランス, 中国, インドネシア, タイ, ブラジル

計 行事数：24

依頼団体数：20

派遣留学生数：延べ 69名（催行者への直接応募を除く）

参加者の出身国：19ヵ国（催行者への直接応募を除く）

が、今後は学生の事前研修や依頼団体からのフィードバックを得るなど、双方向にとってよりよい事業となるよう工夫をしていきたい。

(2) ホームステイ

アドバイジング部門では、留学生と地域とを結ぶホームステイ事業に取り組んでいる。今年度は年間9回のプログラムを行なった。

(詳細については本年報、事業報告編の「地球家族プログラム」を参照)

(3) 地域連絡会・留学生のためのバザー

本年度も地域連絡会を開催し、YWCA、ともだち会、地域のボランティアの方々、異文化交流サークルACEの協力により、名古屋大学留学生会(NUFSA)主催の留学生のためのバザーを4月、10月に開催した。年々バザーの提供品は減少傾向にあり、売上げが落ちている。バザー売上げの減少に伴い、留学生会(NUFSA)の活動や新入留学生歓迎のためのウェルカムパーティを開催することが難しくなっている状況である。留学生のためのバザーは、渡日直後やアパートで生活を始めた留学生にとっては生活用品を安い価格で購入することのできる機会であり、今後も継続してほしいという声があがっている。バザーの在り方など、今後も他大学の取組みなどを参考にしながら、検討していく必要があると考えられる。

(4) 警察との連携

名古屋大学が位置する千種区の警察署には、従来様々な形で学生たちへの安全指導に協力してもらっており、特に新生が、日本の安全神話を過度に信じていることがないよう、これまでの経験も参考にしながらオリエンテーションなどで指導している。また学生集会などが、他人によって思わぬ方向に利用されることなく行なえるよう、学生グループとも協力している。学生が不審者につけられていた事案では、警察から迅速かつ的確な指導を得た。

5. 学内委員会活動

(1) 全学委員会

- ・国際交流委員会(田中)
- ・国際教育運営委員会(田中)

- ・本部学生生活委員会(田中)
- ・こすもす保育園運営協議会(田中)
- ・ハラスメント防止対策委員会(田中)
- ・ハラスメント防止対策担当(相談員)(高木)
- ・ハラスメント相談センター運営委員会(高木)
- ・新たなワーキンググループ(自殺予防リーフレット)(田所)

(2) センター内委員会

- ・総務委員会(田中)
- ・計画・評価委員会(田中)
- ・広報委員会(紀要部会)(田所)
- ・財務・施設委員会(安全・防災部会)(高木)

6. 研究・研修

(1) 著書・論文・報告

- ・田中京子・ストラム ステファン「大学における多文化環境整備～ムスリム学生との協働の視点から」(共著),『留学交流』ウェブマガジン2013年7月号,日本学生支援機構,2013年
- ・田所真生子・渡部留美「名古屋大学グローバル・リーダー育成プログラムの試み」『名古屋大学留学生センター紀要』11号, p.5~13, 名古屋大学留学生センター, 2013年
- ・田所真生子「留学生と日本人学生が創り出すグローバルリーダー」第8回総研大実践的大学院教育研究会(レポート), 岩瀬峰代・奥本素子(編), 総合研究大学院大学学融合推進センター, 2013年
- ・田所真生子「アドバイジング・カウンセリング部門(IB740号室)活動報告」『名古屋大学留学生センター紀要 第11号』p.109~116, 名古屋大学留学生センター, 2013年
- ・田所真生子・虎岩朋加・渡部留美「事業報告:第3回「IF@N:名古屋大学国際学生フォーラム」」『名古屋大学留学生センター紀要 第11号』p.40~41, 名古屋大学留学生センター, 2013年
- ・田所真生子・高木ひとみ「グローバル・リーダー育成プログラム」, 「IF@N:名古屋大学国際学生フォーラム」, 「スモール・ワールド・コーヒーアワー」, 「教育・成長モデル的カウンセリング」『大学の国際化と留学生センターの研究・教育活動』名古屋大学留学生センター外部評価報告書2007~2012, 名古屋大学国際教育交流本部, 2014年

- ・田所真生子・高木ひとみ「名古屋大学グローバルリーダー育成プログラム（MEIPLES）の取組み」『グローバルリーダー教育フォーラム：キャンパスにおける国際教育の実践 報告書』，名古屋大学国際教育交流センター，2014年
- ・高木ひとみ 書評「ファシリテーター行動指南書 意味ある場づくりのために（中野民夫監修，三田地真実著，ナカニシヤ出版）『星槎大学紀要 共生科学研究』9，185-187，2013年

(2) 学会活動

- ・2014年3月8日大学教育改革フォーラム in 東海ポスター発表「グローバルリーダー育成プログラム（MEIPLES）実践報告」（渡部・田所・高木）
- ・2014年3月9日大学教育実践研究会ポスター発表「グローバルリーダー育成プログラム（MEIPLES）実践報告」（渡部・田所・高木）
- ・大学法人留学生指導研究協議会（COISAN）編集委員長（田中）
- ・異文化間教育学会 編集委員（田中）
- ・国立大学法人留学生指導研究協議会（COISAN）研究班（高木）

(3) 研究活動

- ・2014年2月12日国立大学法人留学生指導研究協議会（COISAN）第2回留学生交流・指導研究会（大阪大学，高木）
- ・2014年2月18日名古屋大学国際教育交流センター「グローバルリーダー教育フォーラム」パネリスト（名古屋大学，田所・高木）

(4) その他

【FD・SD活動】

- ・2013年7月26日国際教育交流協議会（JAFSA）中級者研修「受入れ留学生の支援」出席（田所・高木）
- ・2013年9月European Association for International Educators Conference 参加（イスタンブール，高木）
- ・2014年2月14日グローバル30総括シンポジウム参加（福岡，高木・田所）
- ・2014年2月 IES Workshop, GCI-Qualifying Seminar 参加（オレゴン州，田所）

- ・2014年3月15日 JAFSA 多文化間メンタルヘルス研究会参加（京都，田所）
- ・2014年3月ミネソタ大学留学生・外国人研究者オフィス視察訪問，Winter Institute for Intercultural Communication 参加（ミネソタ州，ノースカロライナ州，高木）
- ・東山症例検討会（保健管理室，毎月開催）出席（高木・田所）
- ・留学生関係教職員スタディグループ（不定期開催）出席（高木・田所）

【リクルーティング】

- ・2013年4月サウジアラビア高等教育省主催留学フェア（田所）

7. 社会連携

(1) 研修・講座講師

- ・2013年7月25日 全国大学保健管理協会 第51回東海・北陸地方部会研究集会「留学生支援の課題を探る」（講師：田中）
- ・2013年11月14日／21日 名古屋YWCA 日本語教育セミナー基礎コース「多文化コミュニケーション」（講師：田中）
- ・2013年11月18日 東生涯学習センター人権講座「日本に住む『外国人』と『私たち日本人』？」（講師：田中，大学院生3名）
- ・2013年12月企業女性リーダー研修～チームワークを高める力を身につける～（田所：サポート講師として）
- ・2014年1月（2回）日本プロセスワークセンターセミナー（講師：田所）
- ・2014年2月12日 港区生涯学習センター人権講座（講師：田中，大学院生1名）

(2) 国際交流関係財団等の委員

- ・コジマ財団 評議員（田中）
- ・愛知留学生会後援会 常任理事，緊急援助金担当（田中）

8. おわりに

今年度は組織改編に伴う様々な業務増もあって、ひ

とつひとつの業務を丁寧に検討し改善しながら進めるには困難を感じることもあったが、学生たちの毎日の研究や学生生活を支える私たちは通常業務の手を休めることはできない。整理整頓しながらいずれよい形に

収束することをめざして、着々と進めるようにした。今後も、多言語・多文化教育の中で蓄積してきた知見を生かしながら、組織の変化や進展に関わり、貢献していきたい。